

学校教育自己診断の結果と考察

1：児童生徒

NO	設 問	令和7年度の 肯定的回答率	令和6年度 との比較	令和6年度	令和5年度
1	学校は楽しい。	83.1	↓ 5.8	88.9	79.5
2	授業は、教材（プリントや資料など）や教え方など工夫され、わかりやすく楽しい。	93.8	↑ 8.4	85.5	79.1
3	先生はわたしたちのことを大切にしている。	92.1	↓ 2.3	94.3	90.9
4	自分の将来や進路について、考える機会がある。	69.8	↑ 6.4	63.5	62.8
5	先生は、いじめについてわたしが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	89.5	↑ 0.1	89.4	81.0
6	気軽に相談できる先生がいる。	90.2	↑ 20.2	70.0	73.3
7	命の大切さや社会のルールについて学習する時間がある。	80.3	↑ 11.4	69.0	86.0
8	先生はわたしたちの心や体のことをわかってきている。	85.7	↓ 2.7	88.5	84.1
9	先生は、周りの人と気持ちよく過ごせるように気を配ってくれている。	90.6	↓ 5.6	96.2	81.8
10	運動会やお楽しみ会などの行事は、楽しく参加できた。	85.2	↓ 9.1	94.3	78.6
11	学校では授業でパソコンやタブレット端末などを使っている。	84.1	↓ 10.1	94.2	72.5

【考察】

項目2では、肯定率 93.8%と昨年比 8.4%の上昇であった。今年度は各部署の教材共有を進めるなど、教材の深化を工夫したことが結果に表れていると考える。

項目4では、今年度 69.8%と中期的目標の 70%以上に近い評価である。在籍期間が短い病弱支援学校では、継続的な取組みが行いにくい項目であったが、今年度は全校的に自立活動とキャリア教育の観点から教育活動を行う取組みが評価されたと考える。

今年度、項目10を「行事は楽しく参加できるように工夫されている」から、「行事は楽しく参加できた」という、より子ども自身の実感に焦点を当てた設問へと変更した。その結果、肯定的な回答は 85.2% となり、昨年度と比べて 9.1%の減少が見られた。学習以外でも子どもたちが輝く場面を作ることができるよう行事のあり方について考えていきたい。

2：保護者

NO	設 問	令和7年度の 肯定的回答率	令和6年度 との比較	令和6年度	令和5年度
1	子どもは、学校を楽しみにしている。	79.5	↓ 6.6	86.1	93.5
2	授業内容は、子どもに合うように工夫されている。	97.4	↓ 2.6	100	100
3	学校は教育方針をわかりやすく伝えている。	94.7	↓ 2.5	97.2	100
4	学校は、子どもの将来や進路などについて適切な指導を行っている。	82.9	↑ 0.7	82.1	92.9
5	学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	94.3	↑ 2.0	92.3	100
6	学校は、人を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている。	97.2	↑ 0.3	96.9	100
7	学校は、ホームページ等で教育情報の提供について努力している。	100	↑ 3.6	96.4	100
8	教育相談や懇談のときなど、子どもの学習目標の設定に親も関わる機会が設けられている。	92.1	↑ 5.4	86.7	100
9	学校は、保護者が懇談や行事を見る機会を設けている。	87.9	↑ 31.2	56.7	83.3
10	運動会やお楽しみ会などの行事は、子どもが楽しく参加できるように工夫されている。	90.9	↓ 5.5	96.4	100
11	学校は子どもの心身の状態を理解している。	97.4	↑ 0.2	97.2	96.8
12	学校は、前籍校や病院と連携して指導にあたっている。	100	↑ 5.6	94.4	96.6
13	学校は、日常の教育活動において、子どもの人権を尊重している。	100	↑ 2.9	97.1	100
14	学校は、地震や台風警報等への対応を保護者に伝えている。	90.9	↓ 1.1	92.0	86.4
15	学校は、子どものことについて、相談しやすい雰囲気がある。	97.3	↑ 6.7	90.6	96.6
16	学校では授業でパソコンやタブレット端末などを使っている。	94.3	↑ 19.3	75.0	95.7

※精神分教室では、保護者に配付していない。

【考察】

項目1では、79.5%と、昨年度より6.5ポイント低い結果であった。精神分教室は回答者が少ないため数値の影響を受けやすい面はあるが、子どもたちが学校を楽しみにできることは教育活動の根幹となる部分であるため今回の結果を踏まえ、学校での学びや行事が子どもたちの力になると感じてもらえるよう、今後も授業や行事の改善を進めていきたい。

項目9では、昨年度と問いかけ方を変えたが、肯定率87.9%と昨年比31.2%の上昇となった。

項目12では、今年度は肯定率100%であった。今後もケースカンファレンスや退院前カンファレンスなど地域校との連携の機会を大切にしていきたい。

3：病院関係者

NO	設 問	令和7年度の 肯定的回答率	令和6年度 との比較	令和6年度	令和5年度
1	子どもは、学校（病棟）で学習することを楽しみにしている。	86.7	↓ 1.5	88.2	83.3
2	学校は、子どもの体や心の状態を理解し、適切な指導を行っている。	90.0	↓ 1.0	91.0	90.8
3	学校は、子どもの治療や入院生活に良い影響がある。	97.4	↓ 1.3	98.6	98.0
4	学校では、子どもの個人情報を守られている。	98.0	↑ 2.2	95.8	95.2
5	学校は、病棟と連携して教育活動を行っている。	88.5	↓ 0.5	89.0	90.8
6	病院と学校の定期連絡会は役に立っている。	85.1	↑ 5.1	80.0	85.1
7	学校は、病弱教育の専門性向上のために努力している。	91.6	↓ 1.1	92.8	92.1
8	問題が起こった際、学校は迅速に対応することができている。	92.2	↓ 2.7	94.9	91.7
9	学校では授業でパソコンやタブレット端末などを使っている。	89.1	↓ 2.5	91.7	88.1
10	学校の行事は、子どもが楽しく参加できるように工夫されている。	93.8	↓ 0.6	94.4	94.7

【考察】

多くの項目で90%以上の高い肯定率であるが、項目1や項目2では、わずかに肯定率が低下した。これらは学校教育の根幹に関わる部分であるため、病棟のスタッフにも子どもたちが安心して学びに取り組んでいる様子が伝わるよう、今後も継続して改善に努めていきたい。

項目6では、今年度は85.1%と昨年より5.1%上昇した。今後も病院の多くのスタッフに連絡会の存在を知ってもらい、学校と病院との連携を強化していきたい。

項目8では、92.2%という高い評価をいただいた。一方で、昨年度より2.7ポイントの減少が見られたことは、今後の改善に向けた大切な示唆と受け止め、今年度も各部署で事故報告やヒヤリハットが数件あったが、件数の減少に努めるとともに、万が一の際にも迅速に学校としての対応方針を示し、安心して連携できる体制を維持・強化していくことを今後も継続していきたい。

4：教職員

NO	設 問	令和7年度の 肯定的回答率	令和6年度 との比較	令和6年度	令和5年度
1	担当する業務（児童生徒指導・校務分掌等）において自分は組織の一員としての役割を果たしている。	98.2	↑ 17.4	80.8	74.5
2	学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。	96.4	↑ 11.5	84.9	91.8
3	学校運営に、自分の意見が反映されている。	64.3	↓ 1.1	65.4	59.1
4	研究授業等で授業力向上に向けた取組みを推進している。	87.3	↑ 8.0	79.2	85.4
5	児童生徒の実態をふまえ、学習内容・方法の工夫・改善を行っている。	98.2	↓ 1.8	100	100
6	児童生徒の指導内容について、関係教員間でよく話し合いをしている。	96.4	↑ 2.1	94.3	93.9
7	児童生徒の指導において、家庭や関係機関との連携ができています。	94.6	↑ 10.3	84.3	85.1
8	自分はキャリア教育の視点を持って授業づくりをしている。	96.4	↑ 12.4	84.0	89.4
9	いじめ（疑いを含む）が起こった際体制が整っており、迅速に対応することができている。	94.4	↑ 4.4	90.0	87.2
10	相談体制が整備されており、児童生徒は気軽に教職員に相談等することができる。	96.2	↑ 10.5	85.7	100
11	児童生徒が行事等の教育活動に楽しく参加できるよう工夫・改善を行っている。	98.1	0	98.1	79.5
12	人権教育に関する研修会を通して、ハラスメントを含む人権意識の向上に努めている。	91.1	↑ 4.8	86.3	95.8
13	個別の教育支援計画、個別の指導計画について本人・保護者のニーズを踏まえ作成している。	92.6	↓ 1.4	94.0	95.9
14	医療機関や前籍校との連携を密に行っている。	100	↑ 13.2	86.8	91.7
15	個人情報に関する管理システムを適正に活用している。	98.2	↑ 5.9	92.3	87.2
16	受講した研修（校内・校外）を教育実践に役立てている。	94.6	↑ 6.2	88.5	89.6
17	授業でパソコンやタブレット端末等を効果的に活用している。	92.6	↑ 4.4	88.2	70.5
18	業務上の悩みを相談できる環境である。	74.5	0	74.5	75.0
19	教育公務員としての自覚を持ち、服務規律に常に気をつけている。	98.2	↑ 25.7	72.5	87.5
20	施設設備について日常的に点検し、有事の際に迅速に対応できるように努めている。	94.6	↑ 4.1	90.6	61.7
21	必要に応じて他部署への応援に協力している。	85.7	↑ 32.7	53.1	76.7
22	地域支援は十分に行われている。	88.7	↑ 3.6	85.1	89.6
23	防災教育・安全指導を児童生徒に応じて行っている。	91.1	↑ 3.1	88.0	78.0

【考察】

項目12、項目15、項目22、項目23について、中期的目標の近似値の評価である。また、今年度は項目21（教職員・85.7%・32.7%の上昇）については、昨年度から引き続き、同僚性を育むための研修や、会議などの集合開催等、他部署・分教室の教職員との交流機会を設けたことが評価につながったと考える。チーム刀根山支援学校として、全教職員が協力しようとする雰囲気を作られるように、次年度以降も継続的に取組んでいきたい。

また、項目3（教職員・64.3%・1.1%の減少）については、教育活動全般にわたる評価が本校教職員の満足できるところまでは生かされていないことを示しており、学校長を中心として具体的な改善案や目標及び年間計画を示し、教職員への周知・理解の下、目標達成に向けて全教職員一人ひとりが目標と役割を持って取組んでいかなければならない課題と考える。